

## 2014年3月期 決算説明会

2014年5月30日（金） 代表取締役社長 中川 賢司



1. 2014年3月期 決算概要
2. 受注状況について
3. 次期（2015年3月期）の計画
4. 事業展望と課題の進捗状況

# 1. 2014年3月期 決算概要

## 2014年3月期 連結業績(前期との比較)

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	前期	2014年3月期	対前期	
	2012年4月-2013年3月	2013年4月-2014年3月	金額	前年同期比
売上高	2,891	2,778	△112	△3.9%
売上総利益	620	636	+15	+2.5%
販売管理費	610	570	△39	△6.5%
営業利益	10	66	+55	+519.5%
経常利益	△19	49	+68	—
当期純利益	△6	70	+76	—

## 期初予想との対比

(単位：百万円)

	2013/5/7 発表 期初予想	2014年3月期	対予想	
	2013年4月-2014年3月	2013年4月-2014年3月	金額	対予想比
売上高	2,650	2,778	+128	+4.8%
営業利益	74	66	△8	△11.1%
経常利益	37	49	+12	+32.9%
当期純利益	20	70	+49	+239.7%

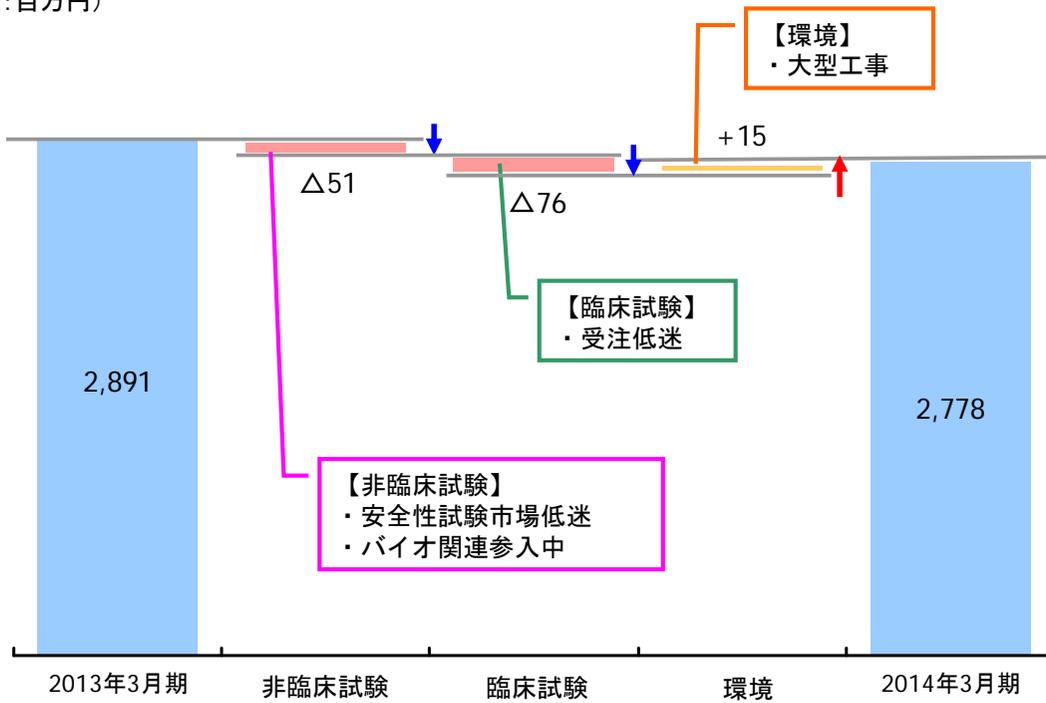
## セグメント別 連結業績(前期との比較)

(単位：百万円)

		前期	2014年3月期	対前期	
		2012年4月-2013年3月	2013年4月-2014年3月	金額	前年同期比
非臨床試験	売上高	2,527	2,476	△51	△2.0%
	営業利益	18	76	+58	+307.4%
臨床試験	売上高	116	39	△76	△66.1%
	営業利益	△16	△39	△22	—
環境	売上高	247	262	+15	+6.2%
	営業利益	8	28	+20	+251.5%

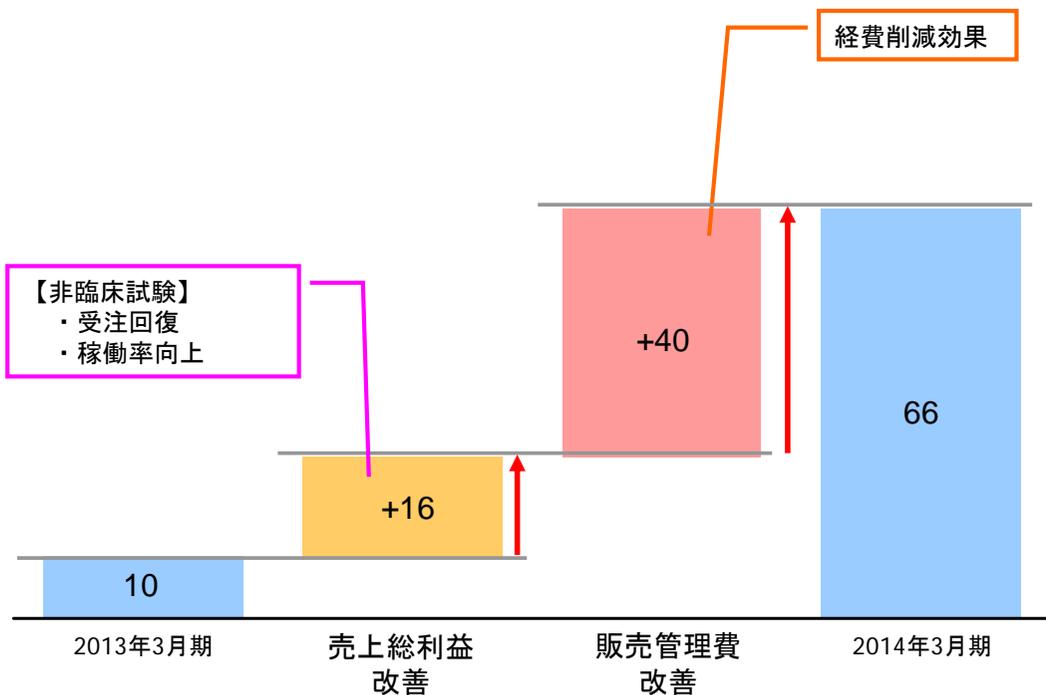
# 売上高増減内訳

(単位:百万円)



# 営業利益増減内訳

(単位:百万円)



# キャッシュ・フロー

## キャッシュ・フロー

(単位：百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	対前期
営業活動によるキャッシュフロー	12	209	+196
投資活動によるキャッシュフロー	132	13	△118
財務活動によるキャッシュフロー	△169	△88	+80

## キャッシュ・フロー関連指標

	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期
自己資本比率 (%) (自己資本/総資産)	36.5	39.7	41.4
キャッシュ・フロー対有利子負債比率 (年) (有利子負債/営業キャッシュ・フロー)	2.8	108.6	6.5
インタレスト・カバレッジ・レシオ (倍) (営業キャッシュ・フロー/利払い)	15.8	0.5	7.4

# 2014年3月期 配当について

## ■配当実績及び当期配当について

				1株当たり配当金	
2010年3月期	2011年3月期	2012年3月期	2013年3月期	2014年3月期	
500円	700円	800円	3円	6円	

2014年3月期配当 : 6円 = 普通配当5円 + 40周年記念配当1円 (配当性向25.1%)

※ 当社は2012年10月1日付で普通株式1株につき100株の割合で株式分割を行なっております。  
2009年3月期～2012年3月期については当該株式分割前の実際の配当額を記載しています。

## 2. 受注状況について

### 受注高・受注残高

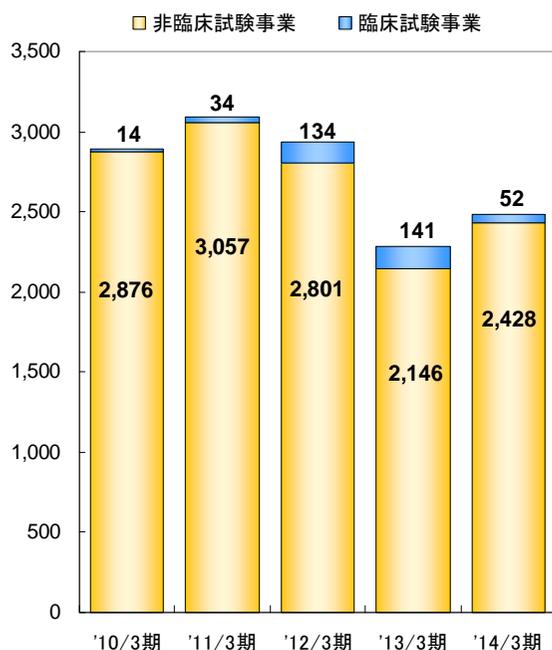
Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	受注高			受注残高		
	前期	2014年 3月期	前年同期比	前期	2014年 3月期	前年同期比
非臨床試験	2,146	2,428	113.1%	1,579	1,531	96.9%
臨床試験	141	52	37.2%	133	146	109.9%
環境	180	253	140.4%	48	40	82.2%
合計	2,468	2,734	110.8%	1,761	1,717	97.5%

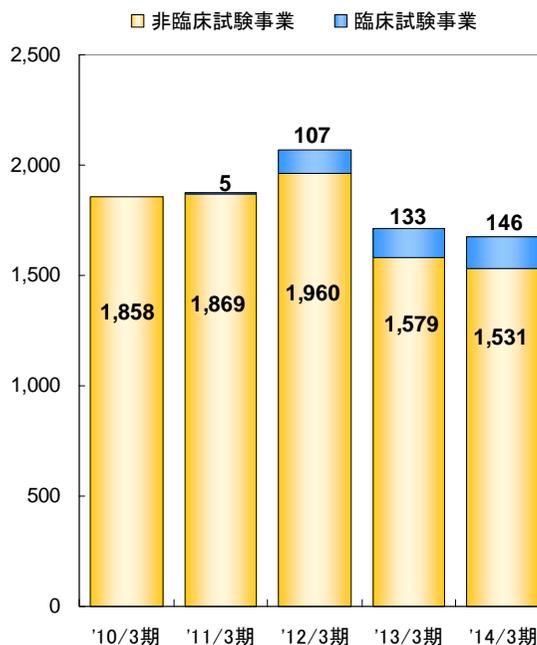
# 非臨床試験及び臨床試験 受注高・受注残高推移

(単位：百万円)



受注高推移

(単位：百万円)



受注残高推移

## 医薬品業界からの受注環境

### 医薬品業界の現状

- ◆ 後発薬の拡大、2010年問題の影響、開発成功率の低下などにより、医薬品開発は難局を向かえている。
- ◆ 研究開発費については、製薬企業は高止まり、アカデミア関連は横ばい状態である。
- ◆ 国内の製薬会社の営業利益率は低下しており、各社は厳しくコスト削減を推進している。
- ◆ 非臨床試験受託市場は額面では2008年度から2010年度にかけて約30%下がり、前期はやや回復。試験数では前期ピークの2008年度並に回復した。

### 今後の動向

- ◆ 医薬品産業への政府投資によりアカデミアの研究が活発化する。併せて、製薬企業とアカデミアとの共同研究も活発化する。
- ◆ iPS細胞の活用（代替法）による創薬研究への応用が始まる
- ◆ 新たな有効性や安全性の評価指標として遺伝子などが研究に導入される。
- ◆ 業界全体としての仕事量の増加に伴い試験単価は徐々に回復が期待される。

### 3. 次期（2015年3月期）の計画

#### 2015年3月期 業績予想

Ina Research Inc.

(単位：百万円)

	2014年3月期	2015年3月期	対2014年3月期	
	実績	予想	金額	対前期 増減率
売上高	2,778	3,000	+222	+8.0%
営業利益	66	83	+17	+25.0%
経常利益	49	50	+1	+0.1%
当期純利益	70	28	△42	△60.5%

## 1株当たり配当金

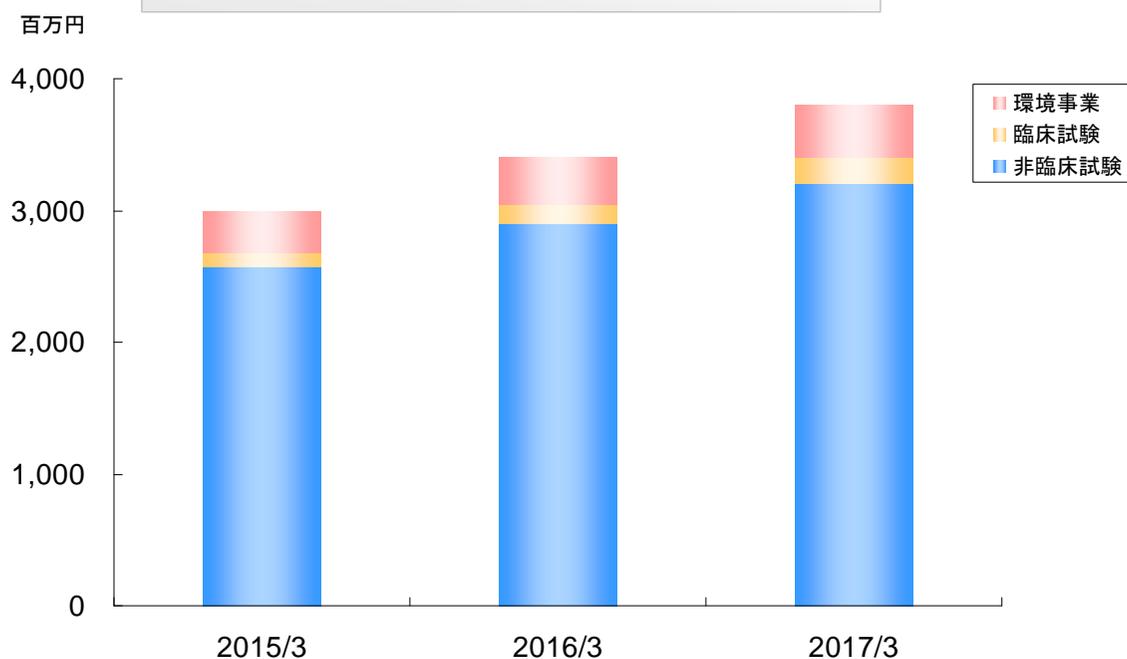
2014年3月期	2015年3月期 予想
6円	3円

※参考

配当性向 2014年3月期:25.1%⇒2015年3月期31.8%

## 4. 事業展望と課題の進捗状況

3カ年売上目標：38億円（2016年3月期）



## 非臨床試験事業の展望（1）

### アカデミアからの受注増加

- ◆ 今期アカデミアへの営業活動、非臨床試験開発を主務とする部門を立ち上げた。これによりアカデミアからの受注を増やす。

### マーモセットを用いる試験の拡大

- ◆ 被験物質量が少なく済む事などからマーモセットを用いる試験が増える事が予想される。国内権威の実験動物中央研究所との連携強化を図り更なる営業活動を推進する。

### 病理機能の強化による大型試験の取り込み

- ◆ 前期、著名な病理専門家と提携した事から、大型毒性試験の受注拡大を推進する。

### 画像診断装置の導入

- ◆ 動物用の画像診断装置を導入し、創薬研究の受注増加を図る。

## 非臨床試験事業の展望（2）

### 遺伝子検査の受託開始と研究開始

- ◆ クラボウの遺伝子解析事業の移転完了に伴い、受託業務開始となった。今後、創薬に遺伝子解析、遺伝子バイオマーカーを応用する研究を推進し、更なる競合との差別化を図る。

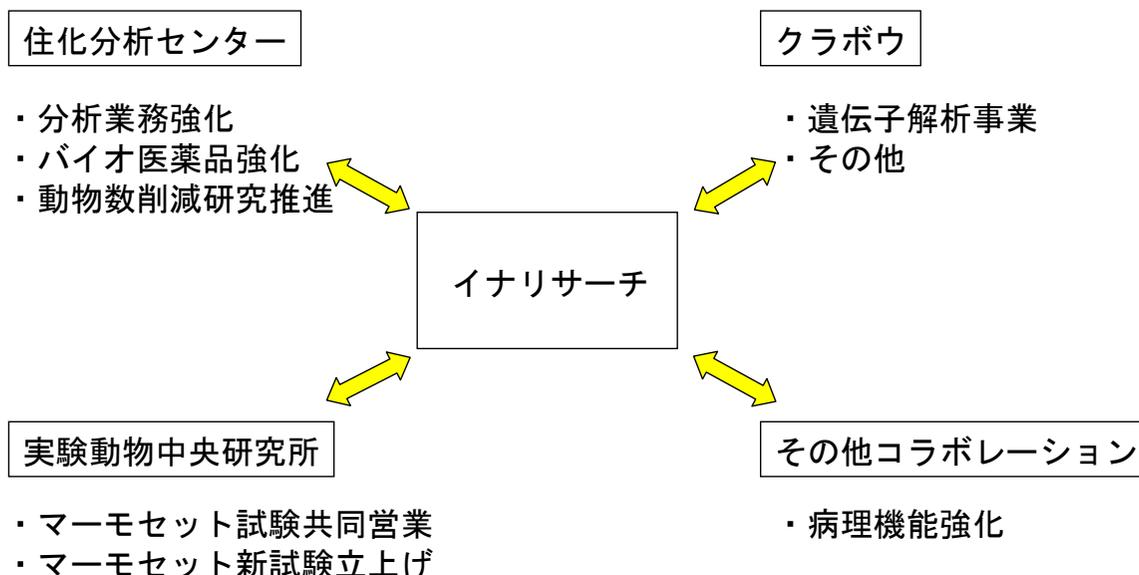
### 試験の動物数を減らす技術を開発

- ◆ 動物倫理面、コスト削減の面から、毒性試験において使用する小動物の数を大幅に減らす技術を住化分析センターと共同開発。差別化図り、改めて受託増加に繋げていく。

### スピードサービス

- ◆ 試験レポートの提出を大幅に期間短縮するサービスを立上げた

## 非臨床試験事業に関わる協力関係



1. MHC（移植寛容型）カニクイザルの安定供給に関する研究  
（当社、東海大学、滋賀医科大学、慶応大学との共同による  
JST採択事業）
2. iPS細胞を用いた心不全治療の共同研究
3. iPS細胞の安全性試験への応用（業界共同推進）
4. マーモセットを用いた試験種の拡大
5. 実験動物（小動物）の使用匹数削減に関する研究
6. 創薬研究への遺伝子応用（今期開始）

## 臨床試験事業の展望

### QT関連試験の獲得

- ◆ 今期、臨床phase I 需要増加に伴い心電図解析需要が増加。サロQT試験も獲得の見込み

#### 臨床試験事業の拡大状況

2013年3月期 受注残：133百万円

2014年3月期 受注残：146百万円

※1 サロQT試験

臨床試験の初期段階で医薬品の循環器への副作用をヒト（健常者）により予測評価する試験

## エンジニアリングの拡大

- ◆ 各所研究施設の老朽化に伴い内装工事が増えている事からエンジニアリング業務を強化する。

## インターネットの営業活用

- ◆ 脱臭、除菌専用のホームページを立上げ、ネット営業戦略を実行する事で営業拡大を図る。

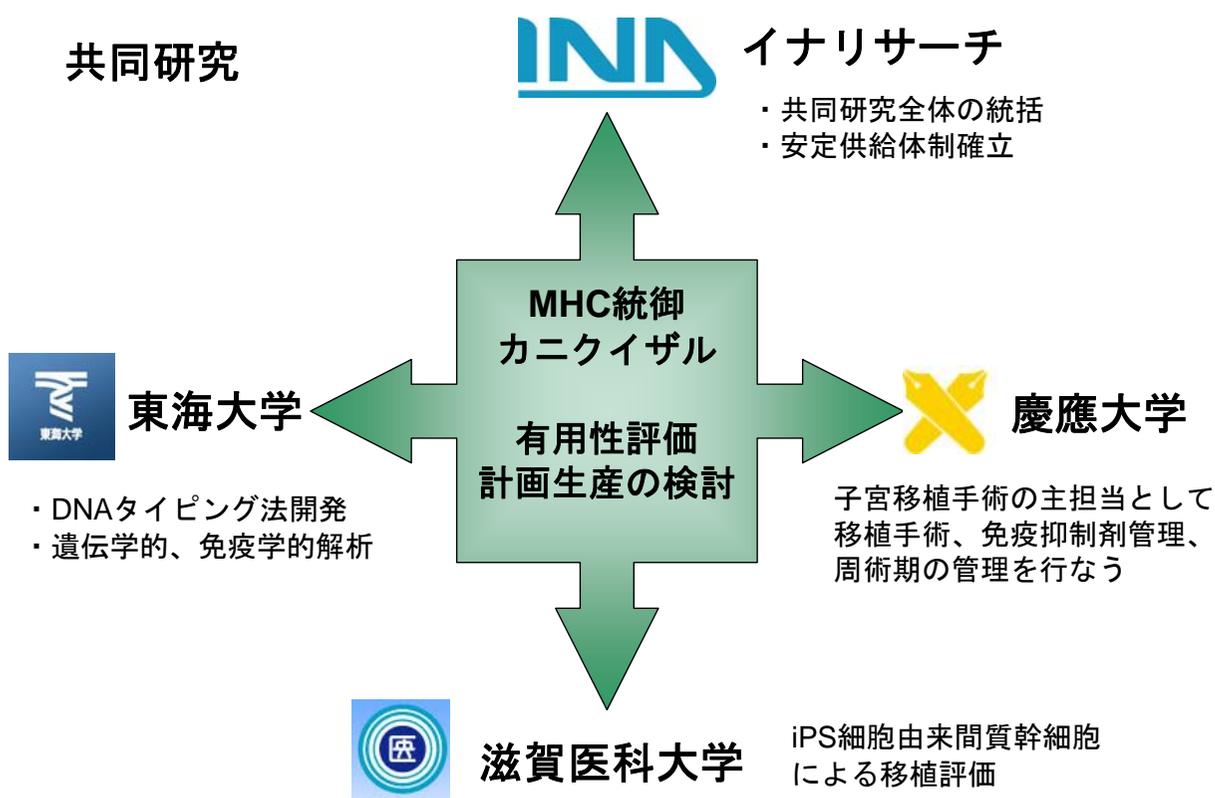
## 実験機器・機材の輸出を模索

- ◆ バイオテクノロジー研究の比較的盛んなアジア諸国に対する実験機器・機材の輸出販売を行っていく

## 畜産分野への参入

- ◆ 鳥インフルエンザ、口蹄疫といった畜産事業の根底を脅かす疾病に対するソリューションの提供

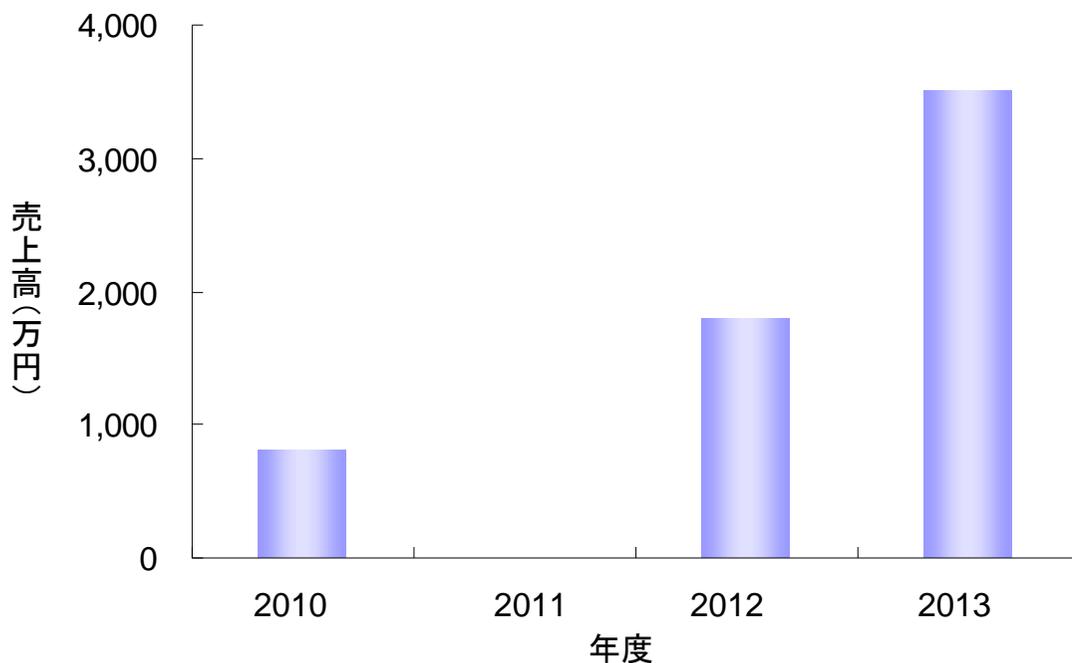
# 新規分野への取り組み：MHCサル



# iPS細胞/MHCサル ビジネスモデル



# MHCサル関連売上高推移



## ターゲット分野での受注獲得体制整備

- ◆ アカデミア分野営業部門の新設
- ◆ 病理強化、画像診断装置導入による大型試験の受託体制整備
- ◆ 営業協力等によるコンサルティング営業強化

## コスト対応力強化

- ◆ 多能化に基づくフレキシブルな試験実施体制の構築
- ◆ 最適なコスト構造の追求（内製化/外注活用の徹底見直し）

## IR連絡先

本資料に関するお問い合わせ

株式会社イナリサーチ  
総務部 IR担当

TEL : 0265-73-6647

医薬品開発のベストパートナー

 **Ina Research Inc.**

<http://www.ina-research.co.jp/>

本資料は、株式会社イナリサーチの事業及び業界動向に加えて、株式会社イナリサーチによる現在の予定、推定、見込み又は予想に基づいた将来の展望についても言及しています。これらの将来の展望に関する表明はさまざまなリスクや不確かさがつきまとっています。既に知られたもしくははまだ知られていないリスク、不確かさ、その他の要因が、将来の展望に対する表明に含まれる事柄と異なる結果を引き起こさないとも限りません。株式会社イナリサーチは将来の展望に対する表明、予想が正しいと約束することはできず、結果は将来の展望と著しく異なるか、さらに悪いこともありえます。本資料における将来の展望に関する表明は、2014年5月30日現在において利用可能な情報に基づいて、株式会社イナリサーチにより2014年5月30日現在においてなされたものであり、将来の出来事や状況を反映して将来の展望に関するいかなる表明の記載をも更新し、変更するものではありません。